

2015 早稲田大学 社会科学部 国語解答例

(一)

[出典]

清水真木『感情とは何か—プラトンからアーレントまで』「第二章 感情の科学、あるいは情動主義について」の一節。途中、文の省略や異同がある。

[解答]

問一 a 4 b 2 c 5 問二 1 問三 2 問四 III
問五 1 (全体は「2-4-1-3」の順) 問六 5 問七 1
問八 X 3 Y 4 問九 4 問十 4. 5

(二)

[出典]

A

竹西寛子「影になったかぐや姫」の一節。(『青葉の時へ』所収。また、『自選 竹西寛子随想集 1 広島が言わせる言葉』にも収められている。) 途中、大きな省略がある。

B

『源氏物語』「夕顔」の一節。途中、文の省略がある。

[解答]

問十一 1 問十二 4 問十三 5 問十四 3 問十五 3
問十六 5 問十七 3 問十八 2 問十九 3

[講評]

(一)が現代文の評論、(二)が現古融合問題。昨年度までは、出、題されていた漢文が今年度は出題されなかった。(二)は、A、B二つの文章からなるが、ほぼ独立した問題として扱える。Aは『竹取物語』を中心的な題材とした随想で、途中に古文の引用および古文の文法問題(問十三)を含んでいる。Bは、Aの文章中で触れられている『源氏物語』「夕顔」が取り上げられているが、格別Aと関連付けなければ解けないという問題はない。ちなみに、今年度の早稲田の入試で「漢文」が出題されなかったのは、「国際教養学部」と「社会科学部」だけである。

(一)は、文章が長く、抽象度が高い文章なので、一見取っつきにくい印象を受けるが、文章の展開自体は論理的で丁寧に順を追って説明されているので、落ち着いて読めば趣旨をつかむことはむしろ難しくないだろう。設問も解きやすいものが多い。問二、問三のように複数の空欄を組み合わせる問題は、どれを入れるか迷ったところは保留して、答えがはっきりしているところから、どんどん入れていくことと、選択肢をうまく利用することが肝要である。やや難しいのが問九だが、ここでいう「体力」はあくまで比喩であ

ることに注意する。

(二) Aは、文章は読みやすく、設問も解きやすいだろう。やや迷うのが、問十一で、1と3で迷ったかもしれないが、3は「美しい幻想を感じさせる」ものを「竹林」だけに限定している点が傍線部に合わない。

(三) Bは、文章自体はやや難しく、特に後半の主語がとりにくかったかもしれない。したがって設問も敬意の対象を問う問十八はやや難しいが、他は基本的な単語や文学史の知識があれば十分解くことができる。問十八は、選択肢⑨が判断に迷うかもしれない。直前の「うちとけたらぬもてなし、髪の下り端もめざましくも」が六条御息所の様を表し、したがってそれを「見たまふ」のは光源氏である。

2015年 早稲田大学 社会科学部 英語解答例

I 1-e 2-b 3-d 4-c 5-d
6-e 7-c 8-b 9-a 10-c

II 1-c 2-e 3-d 4-a 5-c
6-b 7-e 8-a 9-b 10-d

III 1-b, e, h 2-c 3-a 4-e

IV 1-c 2-d 3-a 4-a, e 5-d

V 1-c, f, i 2-e 3-a 4-e 5-d 6-b 7-c

※コメント 例年通り、大問 I が正誤問題で始まり、大問 II～V が長文問題である。正誤問題は体系的で高度な文法知識がないと解きづらい。長文の設問の出題形式も大きな変化はないが、下線部の意味を問う設問で、正解となる選択肢の文が下線文の意味を直接に表していないものがいくつか見られ、難しかったかもしれない。